

平成七年、還暦の記念に何気なく立ち寄った、旧宮崎町「陶芸の里」での陶芸体験が、その後の小野寺重一さんの人生を変えました。眠っていた創作意欲や芸術的感性が一気に花開き、陶芸家として第二の人生を歩み始めることになったのです。

平成十年に三代九十年続いた家業の農機具販売店を自主廃業するという苦難の時期、燃えるような赤を陶器にまとわせるうわぐすり「辰砂釉」と松山の粘土を用いて制作した「辰砂壺」が第二十九回全陶展で初入選し、陶芸家として辰砂の赤を極めるといふ新たな目標が、再び前へ進む勇氣となりました。

その後、小野寺さんの作品には地元の刀匠、法華三郎氏の「大和伝」のイメージや、自主廃業の決断、陶芸家として生まれ変わることに決意など、一刀両断に自分を見つめ直す意を込めて、刀痕を刻んだ作品が生まれました。

「苦しい時期に出会った辰砂の赤、赤は自分にとって敗者復活の色です。一昨年、脑梗塞で倒れてしまったが、陶芸を続けたい気持ちの手麻痺も解き、再びくるくる向かう日々を送っています。多くの方々を支えられてきた私にできることは、陶芸で皆さんに元気を分けてあげたい」と話す。

小野寺さん。今日も奥さんの京子さんと仲むつまじく、二人のお店「自在窯&ギャラリー」で、皆さんの一期一会の出会いを楽しんでいます。



田尻地域発 米を愛する母ちゃんたちの熱い思いが美味しさの秘密
【ライスバーガー】

このコーナーでは、誰かにすめなくなる伝統工芸や物産など、大崎市自慢の逸品を毎月一品ずつ紹介していきます。

田尻地域の農家のお嫁さんたちが経営する、米加工品を販売する「嫁っこ」。この人気商品は、ほんのり醤油味のご飯に具をはさんだ「ライスバーガー」です。

平成十三年三月、「嫁っこ」が開店。当初はおにぎりや餅の販売が主でしたが、子どもたちにもしつかりお米を食べてもらいたいとの思いから、おやつ感覚で食べられるライスバーガーを考案しました。

完成するまでには試行錯誤の繰り返し。米の品種から焼き方、中にはさむ具など、「これだ！」と納得するまで大変苦労したそうです。「家族を巻き込んで毎日試作品を食べてもらい、意見をもらいました。もちろん自分でも全部食べたので太っちゃって...」と試作の苦労を話します。



▲ライスバーガーを考案した「嫁っこ」の皆さん。左から佐藤由美さん、高橋まゆみさん、柳原浩子さん、代表の小野寺良子さん。元氣な母ちゃんたちに会いに「嫁っこ」へ行こう。

も面白い話に。こうして、お米を使った珍しくて、オシャレな「ライスバーガー」が苦勞の末に完成しました。具は、焼肉、きんぴら、田尻産のハム&チーズ、照り焼きチキンの四種類が販売されています。その中でもきんぴらは、メンバー柳原さんのお姑さんが切ったものでないとうまくいかないそう、「ばあちゃんでないければこんなに細かく切れない。出かける時には、出かける日数分ひいていってもらう」とのことだわらう。

「ここかくあいいいので食べてみてください。」子どもたちにつけると思いますが、「子どもたち皆さん、「ライスバーガー」は「嫁っこ」のほか田尻地域の産直施設で一個一八〇円から販売されています。」



Profile (略歴)

1935年 旧松山町に生まれる
1957年 東北大学文学部哲学科中退以後、家業の農機具販売に従事
1995年 60歳で陶芸と出会う
1998年 「辰砂壺」県内美術展等で初めての入賞・入選 農機具販売店を自主廃業
1999年 第29回全陶展初入選 松山町ふるさと歴史館に作品展示
2000年 自在窯&ギャラリー開店
2001年 「回帰辰砂壺」が産経新聞紙上ギャラリーにて「平和芸術大賞」受賞
2002年 「回帰辰砂壺」がアートジャーナル社より「世界平和功勞賞」受賞
2003年 旧松山町有志により小野寺重一後援会設立 「豊稔」がフランス、パリ、美の革命展inルーブルで「トリコロール賞」を受賞 「赤富士辰砂壺」がフランス、パリ、美の革命展inルーブルで「グランプリ賞」を受賞 西本願寺無限展で芸術宝財「清明の位」を受賞
2004年 「分水嶺」が国際平和展 in アルゼンチンで「トルクワト・ディテラ芸術大賞」・「アルゼンチン文化功勞賞」受賞
2005年 写真集「View」～美しく悠々と～出版 国際平和美術展in愛・地球博出品
2006年 辰砂壺「豊稔」がネオジャポニズムインタヒチ 2006で「大統領賞」受賞 ほか

http://jizaikama.jp

私にとって 赤は敗者復活の色 辰砂の赤で 元気を分けてあげたい

陶芸家 小野寺 重一さん (松山・鉄炮町)



燃えるような辰砂の赤に小野寺さんの気持ちがこめられた刀痕



いつも仲睦まじいお二人